



①一生懸命育てた自慢のじゃがいもを手に笑顔の生徒たち②清掃活動の様子。丁寧に黙々と行う姿が印象的だった③部活動にも熱が入る。写真は陸上部④小学部の水遊びの様子。遊びや触れ合いの中にもさまざまな学びが込められている



おいしいじゃがいも
立派に育ったよー！

県立山田養護学校 田中信一 校長 に聞く

自立できる力を 育てる教育

生活力に直結する教育を

私たちが取り組む特別支援学校での教育は、教室で各教科の授業を行い、知識として教えていくものとは方法が異なります。子どもたちが社会に出たときに、自立して生活していけるだけの力を付けさせること。それが、私たちの何よりも大きな目標です。そのためには、生活したり働いたりする場面の中で、実践しながら知識を身に付け、

で習う各教科の知識を、作業などの実践活動の中に盛り込んで教えていきます。働く場面や生活の場面の中で、実践しながら知識を習得していくことで、社会に出て通用する生活力を身に付けていけるのだと思います。例えば、山田養護学校では毎年七夕まつりを開催していますが、その準備を進める中でもさまざまなことを教えることができます。「七夕用の笹にちようどの竹が山にあるので切りに行こう」という意見が出たとき、その山は誰の土地か。勝手に切ってもいいのかわかりませんが、許可はどのようにもらえばいいかと、順番に考えていく中で、社会のルールや仕組み、考え方を学ぶことができます。また、出店を運営すれば計算や接客での話し方を学べますし、催しのために音楽の練習をしたりもします。

活用していくすべを教える必要はありません。

知的障害があっても、たくさん漢字を暗記していたり、計算が得意な子どももいます。けれども彼らは、それらの知識を実際の生活の中に結びつけ、応用していくことが苦手なのです。単に知識として詰め込んで、社会に出て使うことができないければ意味がありません。特別支援学校では、通常授業

の中で、社会のルールや仕組み、考え方を学ぶことができます。また、出店を運営すれば計算や接客での話し方を学べますし、催しのために音楽の練習をしたりもします。イベントや日々の作業など、明確な目的を持ちながら取り組むことで、子どもたちは大きく成長できます。社会に出て生活する力につながる教育かどうか、常に考えながら接していくことが大切だと考えています。

彼らの実力を知ってほしい

平成29年度の卒業生25人のうち、一般企業に就職した人が9人、施設等利用者が13人、それ以外の人が3人でした。障害の重さにもよるため一概には言えませんが、生徒たちは働く場面で十分に力を発揮し、さまざまな職場で通用する人材だと考えています。

高等部になれば、就労という大きな目標に向け、働くために必要な態度とともに、働く意義を理解し、その意欲を育てることを教育の中心に据えて取り組んでいきます。特別支援学校の生徒を対象に、清掃や接客など6種目で行われる技能検定にも参加しながら、それぞれの能力を磨いています。

山田養護学校には、作業を最後までやり遂げる能力が非常に高い子どもたちがたくさんいます。企業に就職した多くの生徒たちが、職場の一員としての力を発揮しています。企業や事業所の方々を含め、市民の皆さんには、ぜひ彼らの実力を知っていただきたいと思っています。

短所ではなく長所に目を向けて

知的障害のある方たちには、苦手なことがあります。例えば、論理的に考えることが得意ではなかったり、あまりたくさんのこと言われるとパニックになったり。しかし同時に、得意なこともあるのです。真面目にコツコツと丁寧な仕事ができる人、楽をせず決められた手順をしっかり守って仕事ができる人。



県立山田養護学校 校長 田中信一さん

周りの人間がきちんと向き合っただけで適切な指示を行えば、驚くような能力を発揮してくれます。ぜひ、短所ではなく長所に目を向けてほしいと思います。障害者だからというレッテルを貼らず、一人ひとりの個性を理解しようとするのが大切です。違いよりも共通点を知っていくことが、共生する社会を築くための第一歩ではないでしょうか。